

自然観察 NOW

№. 82

野幌森林公園自然情報

発行：2024年10月3日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>



エゾユズリハ (蝦夷譲り葉)

ユズリハ科ユズリハ属、北海道と本州の日本海側の豪雪地帯に分布。山地の明るい落葉広葉樹林内に自生し、積雪下で保湿、保温の効果によって越冬している。雌雄異株の常緑の低木 (1~3m)。下方から多くの枝を出す。本州や沖縄に分布するユズリハは大木になる。

葉は枝先にまとまって付き、長楕円形で全縁4~6cm。葉先は尖る。基部はくさび型でやや革質、表面は光沢のある淡緑色で平滑、裏面は緑白色になる。葉脈は8~10、葉柄はやや赤みをおびるか緑色のもある。半陰地での光合成のため葉の寿命は2~3年あり、古くなって光合成機能が低下した葉から離脱していく。譲り葉は縁起の良い木として各地で用いられていた(人の世代交代もかくあるべしとお目出たい木としてお正月飾りに使われていた。本道でも江差地方では門松と一緒にユズリハの枝を飾り付けている)



花は5, 6月ごろ前年枝の、上部葉腋に総状花序を出す。雄花は赤橙色の葯が目立ち7から8個の雄しべがある、花弁やガクのない小花をつける。雌花は一個の子房とその基部に7~8個の退化した雄しべがつく子房は卵形で長さ0.2cm花柱は短く、先は2裂ときに4裂して反り返り、内面は柱頭となる。

果実(核果)は秋に熟し中に大きな核がある。楕円形で黒みがかった青色をしている

繁殖は被食型の種散布、萌芽繁殖、伏状繁殖もある。耐陰性にも富むが開花、結実には陽光が必要である。



樹皮や葉には有毒のアルカロイドがあり、また果実にはダフニラクトン-B やアントシアン系の物質があるが薬草として樹皮、葉を乾燥し、煎じて民間薬として使用されてもいました。

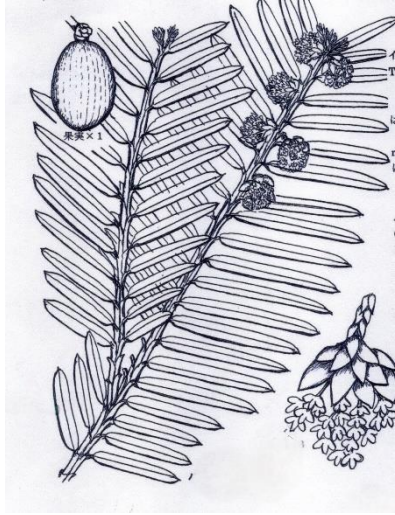
アイヌ語ではリヤハム(越冬する葉)。タバコとしても使われていたようです。

エゾユズリハコースは、野幌森林公園大沢口を入れて、すぐの交差点を右に行く1.2キロのコースです。遊歩道からはほとんどエゾユズリハを見かけませんが、野幌森林公園内には群生しているところが各所にあります。10月のエゾユズリハの雌株は黒みがかった青色の果実をつけています。

ハイイヌガヤ (這い犬榎)

イヌガヤ科イヌガヤ属。北海道、本州の日本海側、多雪地帯に多い。温帯、亜寒帯の落葉広葉樹林下に自生している常緑針葉低木 (1~3m)。

幹は立つものもあるがほとんど半匍匐型で横に走り、枝を分けて斜上し、多幹株となることで積雪に適応した形態となり、雪の保湿、保温を利用し越冬している。枝は対生するか輪生する。



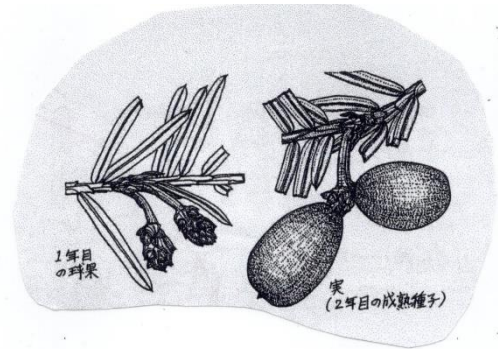
葉は線形で枝の左右に二列に並んでつく。長さ1.5~4cm、幅は0.3cm。基部は円形、上面は中央脈が突出し、下面は2本の緑白色の気孔体がある。先端は尖る。軟質で無柄、触っても痛くない。

雌雄異株。雌株の雌花は枝先に2~3個が束生し、鱗片のない柄の上いくつかの包鱗が、十字対生し球果状となる。緑色。包鱗の腋に2個の胚珠がつく。雄花は2年生枝の葉腋に球のようにまとまって葉の下に並んでつく。鱗片に覆われた短い柄の上に数個の包がついて、分枝した花序をもつ。その包腋に数個の葯からなる黄色の雄花がつく。風媒花。

翌年秋に成熟種子になる。赤紫色の果肉はやに臭いが甘く食べられる。内に堅い内種皮がある。

繁殖は被食型。動物に散布される。

今、野幌森林公園内のハイイヌガヤの果実(2年目の成熟種子)は赤紫色でよく目立ちます。



*野幌森林公園内で見られる常緑小葉低木

エゾユズリハとハイイヌガヤの他にも、野幌の森には何種類かの常緑小低木があります。

- ・ツルシキミ 雌雄異株、葉は被針状長楕円形で、長さは4~9cm。上面は光沢があり革質。4、5月頃白い花をつける。雌株は秋に赤い果実をつける。
- ・ツルツゲ 雌雄異株。花は白色6、7月頃咲き、果実は球形9、10月頃赤熟する。
- ・イヌツゲ 雌雄異株。花は白色から淡黄色6、7月頃咲き、果実は9、10月頃黒く熟す。
- ・ツルマサキ つる性で気根があり他の木にはい上る。花は淡緑黄色で6、7月頃咲く。果実は球形で9、10月頃成熟、4裂し、橙赤色の仮種皮に包まれた種子があらわれる。

参考図書 「北海道樹木図譜」 齊藤新一郎 北海道大学出版会 「北海道の樹木」 鮫島惇一郎 北海道新聞社
「原色樹木大図鑑」 北隆館 「おもしろい木の話」 社団法人北海道森と緑の会
「北海道樹木図鑑」 佐藤孝夫 亜璃西社

観察会の予定

晩秋の森観察会	10月19日(土) 10時から	野幌森林公園 大沢口駐車場
		大沢コース→エゾユズリハコース周回
秋のありがとう観察会	11月 2日(土) 9時50分	自然ふれあい交流館
		A:ふれあいコース、B:桂コース

(文責 菅 美紀子)